

立正大学博物館年報

5

平成18(2006)年度

立正大学博物館

序

平成14年4月に開館した立正大学博物館は、平成18年度で5周年を迎えた。この間には開設に当たって尽力された坂詰秀一初代館長が定年退職され、また開設準備からかかわってきた、博物館学講座の教員と兼務した初代の博物館専門職員の上野恵司氏が病没され、当初の体制は一新されて5周年を迎えた。

また博物館に対して興味を有する多くの学生が所属した文学部は、熊谷を離れ大崎4年一貫体制を採り、近く仏教学部も同様の体制となることが決まっている。恒常的に博物館業務に興味を有する学生の大幅な欠如は、熊谷校地に立地する立正大学博物館の在り方に再考を迫る事態でもある。

熊谷校地は開学以来40年を超え、再開発を迎えている。熊谷校地所属学部の特性を踏まえ、大崎所属学部学生にも有意に機能するような博物館業務を考慮すべきであろうし、施設もまた新時代に相応した内容が求められよう。

平成19（2007）年9月

館長 池上 悟

序

I. 博物館の概要	(2)	III. 調査研究	(19)
(1)組織と職員		(1)長徳寺鐘	
(2)立正大学組織表		(2)日光山安光寺鐘	
(3)立正大学博物館規定			
(4)立正大学博物館細則		IV. 寄贈図書目録	(30)
(5)施設			
II. 事業報告	(13)		
(1)平成18年度収支報告			
(2)開館日数・入館者数			
(3)出版			
(4)資料活用			
(5)常設展示・企画展示			
(6)教育普及			
(7)寄贈資料			

I. 博物館の概要

(1) 組織と職員

a. 職員

館長	池上 悟
専門職員	内田勇樹
事務員	田村佳道

b. 運営委員

第1号委員

池上 悟（博物館長・文学部教授）

第2号委員

内田勇樹（専門職員・非常勤嘱託）

第3号委員

鈴木隆史（法学部長・法学部教授）

澤田裕之（地球環境科学部長・

地球環境科学部教授）

第4号委員

横山幸永（経済研究所長・経済学部教授）

原田壽子（社会福祉研究所長・

社会福祉学部教授）

第5号委員

坂輪宣敬

（博物館関係学識経験者・仏教学部教授）

第6号委員

野沢佳美（文化史関係学識経験者・

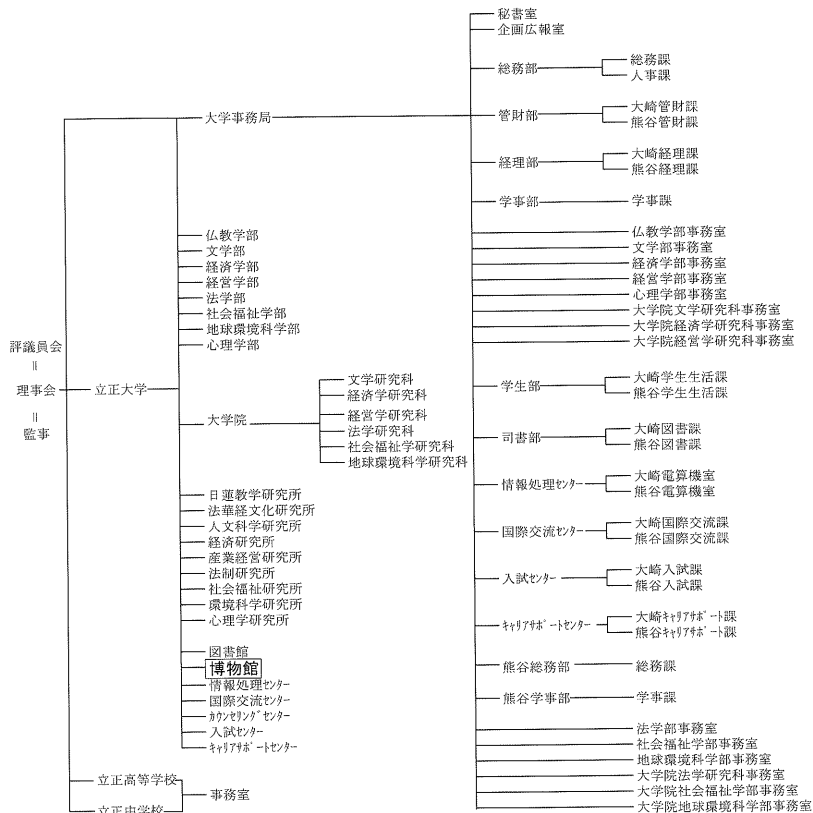
文学部准教授）

第7号委員

島津 弘（自然史関係学識経験者・

地球環境科学部教授）

(2) 立正大学組織表



(3)立正大学博物館規定

(設定)

第1条 立正大学学則第9条の規定に基づき、熊谷キャンパスに「立正大学博物館」(以下「博物館」という)を置く。

(目的)

第2条 博物館は歴史・芸術・民俗・産業・自然誌に関する学術的資料(以下「資料等」という)を収集、保管し、これを組織的に展示し、広く社会に公開するとともに、これらの調査研究を行うことによって大学における教育・研究の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は前条に規定する目的を達成するため、次の事業を行う。

- 一 資料等の収集、整理および保管
- 二 資料等の展示および公開
- 三 調査研究活動
- 四 調査研究成果の発表および出版
- 五 本学における博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力
- 六 講演会、講習会および特別展示会の開催
- 七 その他必要な事業

(職員)

第4条 博物館に次の職員を置く。

- 一 館長
- 二 専門職員

(館長)

第5条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は博物館を代表し、博物館の業務を総括する。
- 3 館長は全学協議会に諮り、本学専任教職員より学長が任命する。
- 4 館長の任期は3年とし、再任を妨げな

い。

- 5 館長が欠けたときは、補充しなければならない。この場合において、その任期は前任者の残任期間とする。

(専門職員)

第6条 専門職員は第3条に定める事業に従事するとともに、これに関連する業務を行う。

- 2 専門職員は博物館学芸員の資格を有するものとし、任期は3年とする。

(運営委員会)

第7条 博物館の管理運営に必要な事項を審議するため、博物館運営委員会(以下「委員会」という)を置く。

(委員会・構成)

第8条 委員会は、次の者を以って構成し、学長が委嘱する。

- 一 館長
- 二 専門委員
- 三 学部長から2名
- 四 研究所長から2名
- 五 博物館学芸員関係学識経験者から1名
- 六 考古学および文化史関係学識経験者から1名
- 七 自然誌関係学識経験者から1名

- 2 館長の推薦により、前項に定める委員会のほか、学識経験者若干名を加えることができる。学識経験者委員の委嘱は学長が行う。

- 3 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(委員の任期)

第9条 前条第三号乃至六号および第2項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 任期中に欠員が生じた場合は、委員を

補充し、任期は前任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第10条 委員会は、館長が召集し、議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって決する。

(委員会の審議事項)

第11条 委員会は、以下の事項について審議する。

- 一 資料等の収集、整理、保管、展示および公開に関する事項
- 二 博物館の管理運営に関する事項
- 三 調査研究活動ならびにその成果の発表および出版に関する事項

(4)立正大学博物館細則

(趣旨)

第1条 この細則は立正大学博物館規程第12条の規定に基づき、同規程の施行について必要な事項を定めるものとする。

(開館日)

第2条 立正大学博物館(以下「博物館」という)の開館日は原則として立正大学学則第31条に定める休業日および火曜日を除く日とする。

(開館時間)

第3条 博物館の開館時間は、午前10時から午後4時までとする。

(入館手続)

第4条 博物館に入館する者は、所定の手続きをとらなければならない。

- 2 館長は博物館における教育および研究活動に支障があると認める場合は、入館を許可しないことがある。

(入館料)

四 博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力に関する事項

五 博物館の予算・決算に関する事項

六 その他必要な事業に関する事

(細則)

第12条 この規定に定めるもののほか、管理運営上必要な事項は、立正大学博物館規定細則によるものとする。

(規程の改廃)

第13条 本規程の改廃は委員会および全学協議会の議を経るものとする。

附則

この規程は平成14年4月1日から施行する。

第5条 博物館の入館料は原則として無料とする。

(入館者の義務)

第6条 入館者は博物館の施設・資料等を毀損し、または滅失したときは、直ちに館長に届け出て、その指示に従わなければならない。

- 2 入館者は前項の規定にある損害に対し損害賠償の義務を負わなければならない。ただし、事情によりこれを免除または軽減することができる。

(資料等の利用)

第7条 博物館内において撮影、実測、特殊観察、複製製作の目的で資料等の利用を希望する者は、館内利用許可申請書(様式2)を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

- 2 資料の所蔵者または寄託者が学外にある場合は、当該資料の利用を希望する者は事前に所蔵者または寄託者の承認

を受け、それを証明する書類を利用許可申請書に添付しなければならない。

3 利用を許可された者は次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 一 利用に際しては博物館の専門職員の支持に従うこと。
- 二 利用による成果を刊行物、映画フィルム、ビデオテープ等に発表したときは、本博物館の名称およびその所蔵、または保管である旨を明記すること。
- 三 利用により生じた著作物等は利用許可申請書に記載の目的以外には使用しないこと。
- 四 館長は、第1項の利用許可申請書の提出があったときは、審査のうえ館内利用許可書(様式2)を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、立正大学博物館運営委員会(以下「委員会」という)の議を経なければならない。なお、館長は管理上支障があると判断した場合は、許可を取り消すことができる。
- 五 本条第1項による利用許可を受けた者が、当該資料を毀損した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の利用料金)

第8条 前条第3項により許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入しなければならない。

2 館長は、前項の定めにかかわらず次の各号のいずれかに該当する場合は、利用料金を全額免除することができる。

- 一 各種教育機関や国または地方公共団体および公益法人が行う教育、

学術および文化等に関する事業

二 博物館法(昭和26年法律第285号)

に規定する博物館等の行う事業

三 学術研究

四 前号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき

- 3 前項の定めにより利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物1部以上を無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が認めたときはこの限りでない。

(資料等の貸出)

第9条 資料などの貸出を受けようとする者は、館外貸出許可申請書(様式3)を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

- 2 館長は前項の貸出許可申請書(様式4)の提出があったときは、審査のうえ館外貸出許可書(様式4)を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、委員会の議を経て決定しなければならない。

- 3 館長は管理上支障があると認められる場合は、前項の許可を取り消すことができる。

- 4 本条第1項による許可を受けた者は、貸出期間中に当該資料等を毀損または滅失した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の貸出料金)

第10条 前条第2項による許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入するとともに、貸出期間中および貸出に伴うすべての経費を負担するものとする。

- 2 前項の定めにかかわらず、第8条第2項一号、二号および四号のいずれかに

該当する場合は、貸出料金を全額免除する。

- 3 前項の定めにより貸出利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物を1部以上、博物館に寄贈しなければならない。ただし、館長が特に認めたときはこの限りでない。

(寄託)

第11条 資料等を寄贈・寄託しようとする者は、その品目、点数、期間等を寄贈申請書(様式5)寄託申込書(様式6)に記入のうえ、館長に提出するものとする。

- 2 館長は前項に定める寄贈・寄託の申出があった時は、委員会の審議に附し、受入の承認がなされたものについて、学長に意見書を提出しなければならない

い。

- 3 館長は寄贈・寄託を受けた時は、寄贈・寄託者に対して該当資料の受領証(様式7)・受託証(様式8)を交付するものとする。
- 4 館長は、寄託を受けた資料等について十分な注意を持って保管しなければならない。

(細則の改廃)

第12条 本細則の改廃は、委員会および全学協議会の議を経るものとする。

(附則)

- 1 この細則に定めのない事項については、館長がその都度、委員会に諮り処理する。
- 2 この細則は平成14年4月1日から施行する。
- 3 この細則は平成15年4月1日から施行する。

様式1

受付番号

立正大学博物館資料
館内利用許可申請書

立正大学博物館長 様

住 所
団 体 名
代表者氏名
電 話

年 月 日

様式2

第 号

立正大学博物館資料
館内利用許可書

様
立正大学博物館長 印

年 月 日

下記のとおり立正大学博物館資料の館内利用を許可します。

記

利 用 目 的				
利 用 資 料	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
利 用 区 分	閲覧・複写・模造・撮影・その他（ ）			
利 用 期 間	年 月 日（ ）から 年 月 日（ ）まで			
利 用 責 任 者				

※ この許可書は、立正大学博物館資料館内利用の際に提示し、利用期間中携帯してください。

記

下記のとおり立正大学博物館資料の館内利用をしたいので申請します。

利 用 目 的				
利 用 資 料	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
利 用 区 分	閲覧・複写・模造・撮影・その他（ ）			
利 用 期 間	年 月 日（ ）から 年 月 日（ ）まで			
利 用 責 任 者				

※ 寄託資料については寄託者の承認書を、借用資料については貸与者の承認書を、著作権者がある資料については著作権者の承認書を添付してください。

立正大学博物館資料
館外貸出許可申請書

年 月 日

立正大学博物館長 様

住 所
団 体 名
代表者氏名
電 話

第 号

立正大学博物館資料
館外貸出許可書

年 月 日

様

立正大学博物館長 印

下記のとおり立正大学博物館資料の館外貸出しを許可します。

下記のとおり立正大学博物館資料の館外貸出しを受けたいので申請します。

記

記

利 用 的				
貸 出 資 料	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
貸 出 期 間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
利 用 場 所				
利 用 方 法				
輸 送 方 法				
取 扱 責 任 者				

※ 需託資料については需託者の承認書を、著作権者がある資料については著作権者の承認書を添付してください。

利 用 的	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
貸 出 資 料				
貸 出 期 間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
利 用 場 所				
利 用 方 法				
輸 送 方 法				
取 扱 責 任 者				

※ この許可書は、立正大学博物館資料の館外貸出しを受ける際に提示してください。

様式5

受付番号

博物館資料寄贈申請書

年 月 日

立正大学博物館長 様

申請者 住所
氏名
電話

印

様式6

受付番号

博物館資料寄託申請書

年 月 日

立正大学博物館長 様

申請者 住所
氏名
電話

印

下記のとおり博物館資料として寄贈したいので申請します。

記

資 料 名	数 量	備 考

下記のとおり博物館資料として寄託したいので申請します。

記

寄 託 期 間	年 月 日 () から	年 月 日 () まで
寄 託 資 料	資 料 名	数 量

第 号

博物館資料受領証

年 月 日
様

立正大学博物館長 印

第 号

博物館資料受託証

年 月 日
様

立正大学博物館長 印

下記のとおり博物館資料として受領しました。

記

資 料 名	数 量	備 考

下記のとおり博物館資料として受託しました。

記

受 託 期 間	年 月 日 () から	年 月 日 () まで
受 託 資 料	資 料 名	数 量

博物館資料借用書

年 月 日

様

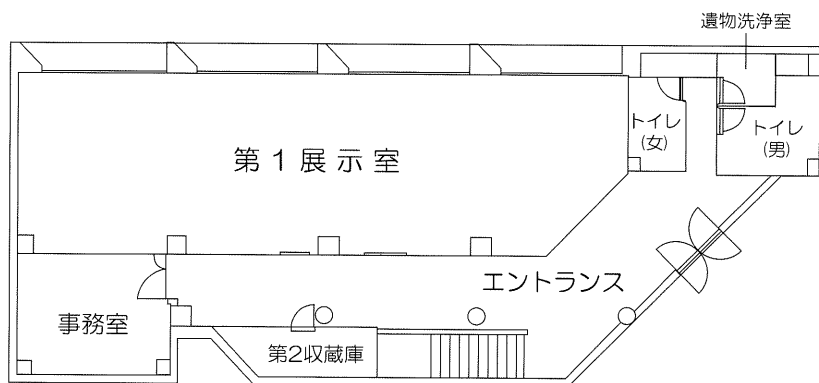
立正大学博物館長 印

下記のとおり博物館資料として借用しました。
記

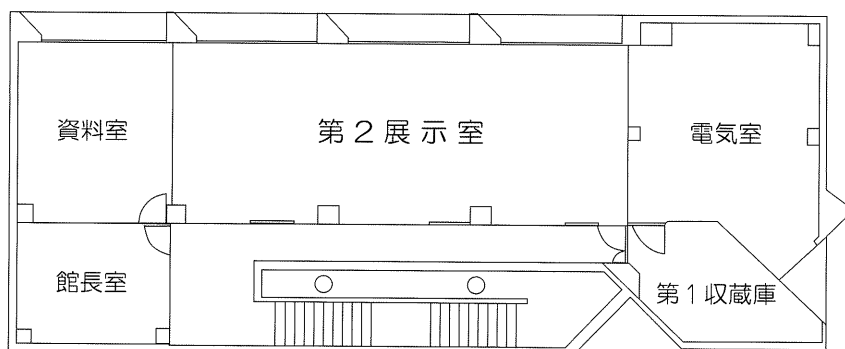
使用期間	平成 年 月 日 () から平成 年 月 日 () まで		
借用理由			
借用資料	資料名	数量	備考
取扱担当者			

※ この借用書は、博物館資料の返却時に返していただきますので、大切に保管してください。

(5)施 設



1階 平面図



2階 平面図

●建物

所 在……………埼玉県熊谷市万吉1700
 建築面積……………376.8㎡
 構 造……………鉄筋コンクリート造 2階建

●各室面積一覧

(1階)

第1展示室……………93.88㎡
 事 務 室……………17.10㎡
 第2収蔵庫……………3.22㎡
 ト イ レ……………11.01㎡
 遺物洗浄室……………2.26㎡
 エントランス……………45.64㎡

(2階)

第2展示室……………71.22㎡
 館 長 室……………16.98㎡
 資 料 室……………23.89㎡
 第1収蔵庫……………12.30㎡
 電 気 室……………39.00㎡

●各室仕様

(第1展示室・事務室)
 床……………タイルカーペット敷
 壁……………ビニールクロス貼り
 天井……………ミネラートン
 (第2展示室)
 床……………タイルカーペット敷

壁……………ビニールクロス貼り

天井……………ミネラートン

(館長室・資料室)

床……………タイルカーペット敷

壁……………ビニールクロス貼り

天井……………ジブトーン

●電気設備

受電設備……………6.6KV
 変圧器設備……………電灯－100KVA 動力－80KVA
 照明設備……………展示室－ハロゲンランプ使用
 館長室・事務室・資料室－蛍光灯使用

●防犯・防災設備

防犯設備……………各室熱センサー取付、非常通報設備
 ITV設備……………CCDカメラ4台、展示室等監視
 自動火災
 報知設備……………P型1級5回線
 消化設備……………粉末消火器9台

●空調設備

空調機……………空冷式、パッケージエアコン(個別)

●給排水設備

給水設備……………市水道使用
 給湯設備……………貯湯式電気湯沸器

Ⅱ. 事業報告

(1) 平成18年度収支報告

予 算 科 目		18年度当初予算	18年度補正額	18年度補正後予算	決 算	増 減
目的及び大科目	小(細)科目					
人 件 費		1,248,000	78,000	1,326,000	632,417	693,583
	教員人件費	0	78,000	78,000	77,777	223
	本務教員 その他手当(教本 他手当(教本目有	0	78,000	78,000	44,444	33,556
	兼務教員 その他手当(教本 他手当(教本目有	0	0	0	33,333	-33,333
	職員人件費	1,248,000	0	1,248,000	554,640	693,360
	兼務職員 雑給(職・兼)	1,248,000	0	1,248,000	554,640	693,360
教育研究経費		3,304,000	76,000	3,380,000	2,469,864	910,136
	会費会合費	100,000	0	100,000	38,752	61,248
	旅費交通費	274,000	0	274,000	225,310	48,690
	その他の旅費交通費	274,000	0	274,000	225,310	48,690
	通信運搬費	320,000	-27,000	293,000	240,437	52,563
	電 話 料	120,000	0	120,000	71,557	48,443
	その他の通信運搬費	200,000	-27,000	173,000	168,880	4,120
	消耗品費	350,000	37,000	387,000	340,974	46,026
	印刷製本費	2,075,000	0	2,075,000	1,390,021	684,979
	コピー料	360,000	0	360,000	267,991	92,009
	その他の印刷製本費	1,715,000	0	1,715,000	1,122,030	592,970
	諸 会 費	25000	10,000	35,000	41,000	-6,000
	図書資料費	50,000	20,000	70,000	66,745	3,255
	手数料報酬	100000	11,000	111,000	88,888	22,112
	雑 費	10,000	0	10,000	12,985	-2,985
	賃借料	0	17,000	17,000	16,800	200
	レンタルリース	0	17,000	17,000	16,800	200
	保険料	0	8,000	8,000	7,952	48
管理経費		0	0	0	46,275	-46,275
	会費会合費	0	0	0	46,275	-46,275
合 計		4,552,000	154,000	4,706,000	3,148,556	1,557,444

(2) 開館日数・入館者数

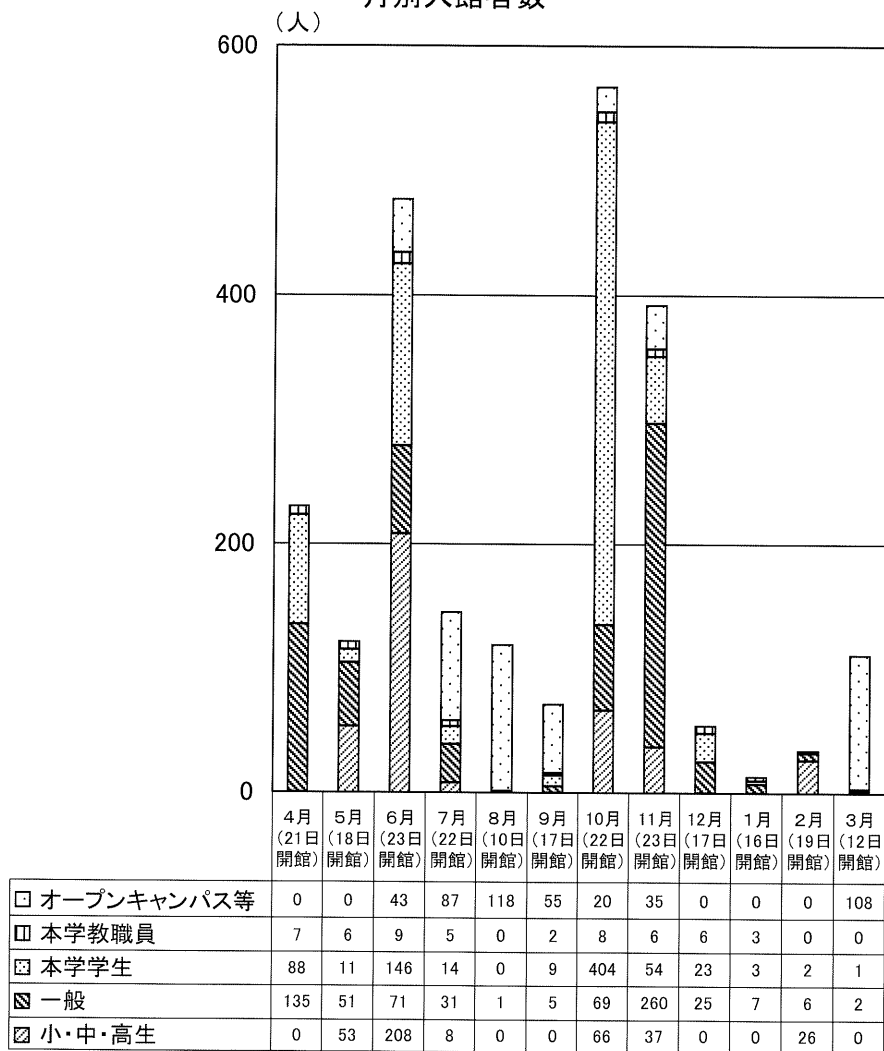
平成18年4月1日から平成19年3月31日の間で、博物館は191日開館した。本来、休館日(火・日曜日)および大学休業日である夏・春期休暇中は開館していないが、外部からの要望もあり出来る限り開館に努めた。

入館者数は、4月が計230人、5月が計121人、6月が計477人、7月が計145人、8月が計119

人、9月が計71人、10月が計567人、11月が計392人、12月が計54人、1月が計392人、2月が計34人、3月が計111人、合計2,334人であった。

その内訳は、表1が示すように、小・中・高校生が計398人、一般が計663人、本学学生が計755人、本学教職員が計52人、オープンキャンパス時の入館者数が計466人であった。

月別入館者数



(3) 出版

本年度は、以下の出版物を刊行した。

- ・立正大学博物館報『万吉だより』第5号
- ・立正大学博物館報『万吉だより』第6号

・立正大学博物館年報 第4号

・館蔵資料「基礎文献」第2輯『吉田格氏収集
寄贈 縄文文化資料』

(4) 資料活用

当館所蔵の資料を以下の博物館に貸出した。

- ・6月28日(水)～11月30日(木) 小田部鋳
造株式会社 梵鐘龍頭木型(撫石庵コレク
ション) 1点

・9月17日(日)～12月16日(土) 品川区立
品川歴史館 谷津池窯跡出土男瓦・女瓦・ス
ライド・白黒フィルム 21点

(5)展 示

1.常 設

ー第1展示室(1F)ー

眞鍋孝志氏(日本古鐘研究会会長)より寄贈されたアジア諸地域の梵音具を中心とする撫石庵コレクションおよび立正大学考古学研究室が1958年～1980年にかけて文部省(現文部科学省)の科学研究費の交付などを受けて実施した「古代窯業の考古学的研究」によって発掘された資料を中心に展示されている。

この他に、旧石器時代の資料として北海道白滝遺跡・報徳遺跡、神奈川県朝日遺跡の出土品が展示され、縄文時代では埼玉県石神貝塚、古墳時代では埼玉県野原古墳群の資料を展示している。

また、熊谷キャンパスにおける施設の新築などに際して、法(文化財保護法)によって定められた遺跡の発掘調査を実施しており、その折、発掘された資料を展示している。

古代から近世にかけては、千葉県九十九坊廃寺・長熊廃寺跡出土品、神奈川県下出土火葬骨蔵器、板碑、東京都増上寺徳川將軍家関係墳墓出土の一字一石経などが展示している。

撫石庵コレクションは、日本をはじめ、朝鮮半島・中国・タイ・ミャンマー・スリランカなどアジア各地の梵音具(鐘・鐸)のほか、金銅釈迦如来立像などが展示されている。

とくに、伝櫃原市出土の梵鐘は、わが国の初現期の梵鐘として10指に入るもので、極めて貴重な資料である。この伝櫃原市出土鐘を復元した鐘が新たに寄贈された。

ー第2展示室(2F)ー

吉田格コレクション、樺太出土資料、ネパール・ティラウラコット出土資料群を展示している。

吉田格コレクションは、吉田 格氏(立正大学専門部地歴科・昭和16(1941)年卒)寄贈のコレクションである。吉田氏は縄文時代研究の学者として著名であり、とくに縄文時代早期の花輪台式、後期の称名寺式は吉田氏によって設定された型式標準資料として学界に周知されている。

とくに称名寺貝塚出土の土器・石器・骨角器および骨角器原料(鹿角)は縄文時代の研究上、きわめて重要な資料である。

また、本草学者・伊藤圭介(日本最初の理学博士)蒐集の石器は『日本産物誌』明治9(1876)年に収められているものであり、嘉永5(1852)年の箱書きを持つ収蔵箱に収められている石器とともに、極めて貴重な資料として吉田コレクションに収められている。

樺太出土資料は、久保常晴氏(元本学名誉教授)寄贈のコレクションで、同氏が1930年代に樺太の地を調査した際に出土したものである。樺太出土資料は、現在、日本各地に所蔵されているが、その一つとして立正大学所蔵品の存在が知られている。

ネパール・ティラウラコット出土資料群は、1967年～1977年にかけて、立正大学がネパール王国に派遣した発掘調査団によって発掘された資料であり、とくに日ネ親善のためネパール考古局より寄贈された資料である。

ティラウラコット遺跡は、釈尊出家の故城ーカピラ城跡の有力な比定遺跡として世界の学界に知られていた。その地を10年間にわたって発掘調査した結果、カピラ城跡の最有力遺跡として注目されるにいたっている。

東西約400m、南北約480mの方形の城跡内に7つの遺丘が存在し、その中の2つを発掘して得られた資料である。

2.企画・特別展示

第3回特別企画展

「江戸狩野とその世界～作品と墓所～」

◆期間：平成18年10月16日(月)～11月18日(土)

◆内容：第3回特別企画展として「江戸狩野とその世界～作品と墓所～」を開催した。絵師狩野家は古くからの日蓮宗信徒であり、これら狩野家の墓所が日蓮宗大本山の池上本門寺に営まれている。その中で池上本門寺境内に所在する重要文化財である五重塔の修復に伴う境内整備の一環として江戸時代の墓所を対象とした調査を行い、木挽町狩野家墓所が発掘調査された。また、隣接する日蓮宗永寿院境内に位置する芳心院(鳥取池田藩初代池田光仲正室・紀州徳川頼宣娘)墓所も発掘調査された。いずれの発掘調査にも立正大学が関係したこともあり、このたびの特別企画展では、狩野諸家のうちで江戸

時代を通じて優勢であった木挽町狩野家墓所からの出土品と、関連作品を対象として展示した。

◆講演会

日時：10月21日(土) 13:00～16:30

場所：熊谷校舎1号館1102教室

講演

「奥絵師江戸狩野家墓所の調査」

講師 本間岳人

(佛教石造文化財研究所主任研究員)

「池上本門寺の沿革と狩野家」

講師 安藤昌就

(池上本門寺霊宝殿学芸員)

記念講演

「江戸狩野とその世界」

講師 坂輪宣敬

(立正大学仏教学部教授・

立正大学法華経文化研究所所長)

立正大学博物館
第3回特別企画展
開 期：平成18年10月16日(月)～11月18日(土)
場 所：立正大学博物館

講 演
日 時：10月21日(土曜日) 13:00～16:30
場 所：立正大学熊谷校舎1号館1102教室

講演1「奥絵師江戸狩野家墓所の調査」
講師 本間 岳人
(佛教石造文化財研究所主任研究員)

講演2「池上本門寺の沿革と狩野家」
講師 安藤 昌就
(池上本門寺霊宝殿学芸員)

記念講演
「江戸狩野とその世界」
坂輪宣敬先生(立正大学仏教学部教授・立正大学法華経文化研究所所長)

江戸狩野とその世界
作品と墓所

協力：立正大学法華経文化研究所
後援：日蓮宗大本山池上本門寺・池上永寿院

立正大学博物館
埼玉県熊谷市力11700
TEL 0485-539-8110 FAX 0485-539-8170
URL <http://www.ris.ac.jp/museum/>
Email museum@ris.ac.jp



坂輪宣敬氏による記念講演の様子

第3回特別企画展チラシ

(6)教育 普及

平成18年7月31日(月)から8月5日(土)及び9月11日(月)から16日(土)の2回にわたって、博物館で館務実習を行った。

実習生：22名(仏教学部仏教学科2名、文学

部史学科12名、文学部文学科4名、地球環境科学部環境システム学科3名、地球環境科学部地理学科1名)

(実習内容)

ー第1回ー

7月31日(月)

・午前の部

館長挨拶・館務実習の説明

館の概要説明・館内施設の見学

文化史関係講演

(講師 柳田 敏司先生)

・午後の部

台帳カード作成

8月1日(火)

・午前の部

台帳カード作成

・午後の部

台帳カード作成

8月2日(水)

・午前の部

台帳カード作成

・午後の部

施設見学

埼玉県埋蔵文化財調査事業団

8月3日(木)

・午前の部

自然史関係実習

(講師 島津 弘先生)

・午後の部

自然史関係実習

(講師 島津 弘先生)

8月4日(金)

・午前の部

パネル作成

・午後の部

パネル作成

8月5日(土)

・午前の部

パネル作成

・午後の部

意見交換会

実習に参加して

ー第2回ー

9月11日(月)

・午前の部

館長挨拶・館務実習の説明

館の概要説明・館内施設の見学

文化史関係講演

(講師 市毛 薫先生)

・午後の部

台帳カード作成

9月12日(火)

・午前の部

台帳カード作成

・午後の部

台帳カード作成

9月13日(水)

・午前の部

台帳カード作成

・午後の部

施設見学

(助)埼玉県埋蔵文化財調査事業団

9月14日(木)

・午前の部

自然史関係実習

(講師 島津 弘先生)

・午後の部

自然史関係実習

(講師 島津 弘先生)

9月15日(金)

・午前の部

パネル作成

・午後の部

施設見学

埼玉県立史蹟の博物館

9月16日(土)

・午前の部

パネル作成

・午後の部

意見交換会

実習に参加して

(7)寄贈資料

①上野恵司氏寄贈資料

遺跡調査報告書……………	531冊
雑誌……………	324冊
単行本等……………	257冊

会報・概報・年報・紀要など ……	131冊
資料集・論文集など……………	63冊

②眞鍋孝志氏寄贈資料

伝櫃原市出土鐘復元品1口

平成18年11月17日に眞鍋孝志氏(日本古鐘研究会会長)より寄贈を受けた。元の鐘自体が鐘身の半分がつぶれ、残り半分も若干の歪みがあったが、『撫石庵コレクション考古資料図録Ⅱ』(立正大学学園平成13(2001)年2月)に掲載されている復元実測図を元に、茨城県の鋳物師小田部氏に鋳造を依頼し復元した。復元鐘は、

衝き座は実際の伝櫃原出土梵鐘からおこしたもので、立正大学博物館に寄贈して頂いた復元品は鋳出した状態のままのものである。



③江坂輝彌氏寄贈資料

写真

スライド……………	3612枚
プリントフィルム ……	7630枚
ネガフィルム……………	857枚
アルバム……………	164冊

絵葉書…………… 2,385枚

手紙類…………… 5,447枚

切手…………… 36,098枚

新聞(切り抜き・スクラップ含む) ……	155
雑誌・本・報告書 ……	1,191冊
原稿……………	86
抜き刷り……………	719冊
遺跡調査関連資料(図面・遺跡地図等) ……	505本
各種委員会資料……………	385
地図……………	549枚
観光関係パンフレットなど……………	526枚

III. 調査・研究

(1) 長徳寺鐘

長徳寺鐘の大きさは、全高123.9cm、口径67.9cmである。材質は青銅製であり、色調は緑がかった淡黒褐色を呈する。龍頭の大きさは高さ24.6cmで、形は一般的な二頭の龍を背中合わせにつけ、中央に宝珠を配するものである。宝珠部分は、龍頭と平行して扁平な形をとるが、しかしながら本鐘は立体的にほどこされている。

鐘身について上部からみていくと、笠形の部分には、流雲文が全体に巡らされている。また、龍頭と接する上部のところには、龍頭と平行して横13.0cm、縦3.0cmの大きさの鑄口の痕跡部分が二本残っている。

次に笠形部下部に配される上帯のには、笠形の部分と同じく流雲文が巡らされているまた、その流雲文の間には径約3mmの珠文が施されている。その下の乳の間には、一区内4段5列の乳が合計80個並んでいる。乳の大きさは最大径3.4cm、高さ2.7cmである。

次に池の間であるが、図1のように四区全てに銘文が鑄刻されている。

次に草の間には、2匹の龍と波文様が陽刻されている。草の間と駒の爪の間には径1.3cmの円文が巡っている。また、駒の爪には、反花が鑄刻で現されている。

撞座は、大きさ径約12.4cmで単弁16葉蓮華文を呈する。

銘文にある「東奥気仙郡横田邑」は、現在の岩手県陸前高田市横田町である。また、「大西五郎八貞清」は、坪井良平「宮城県史抄出江戸時代鑄物師名譜」(『梵鐘と考古学』平成元年)によると宮城県仙台を中心に活躍していた鑄物師であることがわかる。「大西五郎八貞清」は「大西五郎八清貞」といい、仙台・林光院鐘(享保18(1733)年)、仙台・万日堂鐘(元文4(1739)年、「※大西五郎八貞清とあり」と注記されており、長徳寺鐘と同じ鑄刻である)、仙台・保春院鐘(元文5(1740)年)、多賀城・宝国寺鐘(延享2(1745)年)が挙げられている。

(銘文)

(第一区)

曩昔拘留孫佛造青石鐘掛修多羅院之中于時諸化佛出現鐘上演說十二部經聞法獲果者不可勝數矣自爾以來上天下界一切國土無以鐘不作佛事為夫德也獨孤及之文李白之銘煥然而可觀如闕賓王脫刀割南唐先主解縲絊不遑于枚挙矣宝珠山長徳禪寺需放宝鐘蓋有稔前往東嶽普叩檀門以乞助貲於是諸檀信祖左肩棄淨財勦力乃命于鑄師梵鐘既成矣現住洞雲馳於專多以請於銘序隨喜而不固辭遂誌焉其

(第二区)

銘 日

緇門要器	脱模云旌
紀三允淑	以六相平
異祥湧地	礼樂茲呈
竜圍獸繞	鯨翻牢驚
天地應律	品物動成
賢聖歡喜	善神葵誠
和霜與月	隔岳徹紘
無情說法	聞根澄清
空色俱寂	圓通入聲
晨昏有驚	進止合令
金剛稟体	般若傳明

(第三区)

化佛轉法	幽冥度生
能和小大	扣響鏗々
珠山新掛	永增輝榮

岬元文三戌午林鐘吉莫東嶠

白梅嶺誌

東奥気仙郡横田邑

宝珠山長徳禪寺

前往東嶽募縁

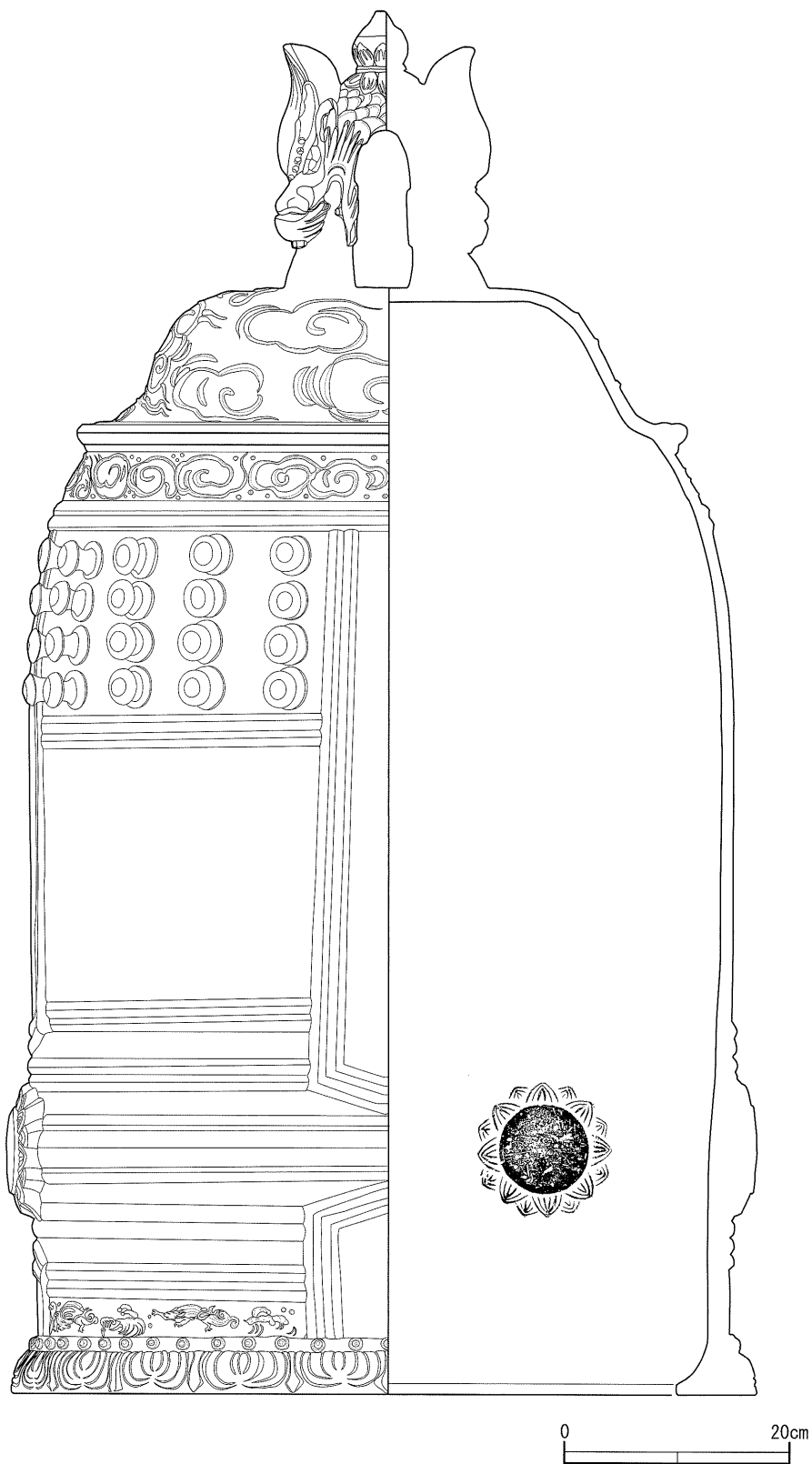
(第四区)

現住洞雲補化

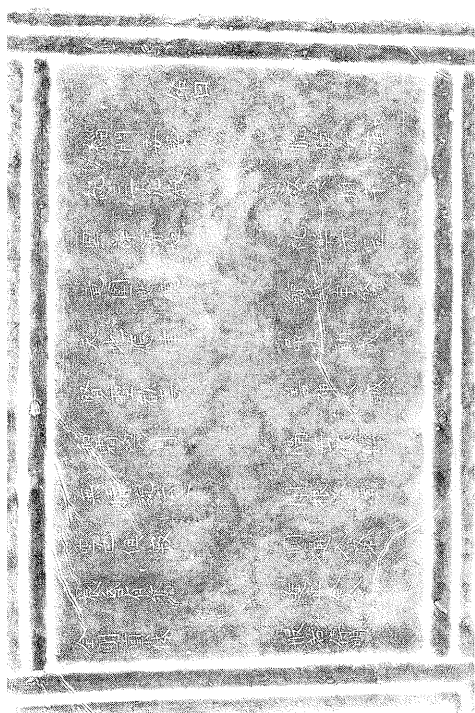
仙墓大西五郎治嫡子

大西五郎八貞清作

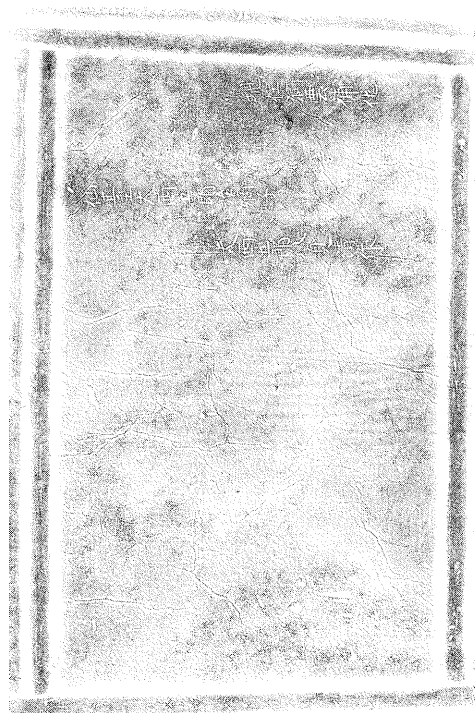
(学芸員 内田勇樹)



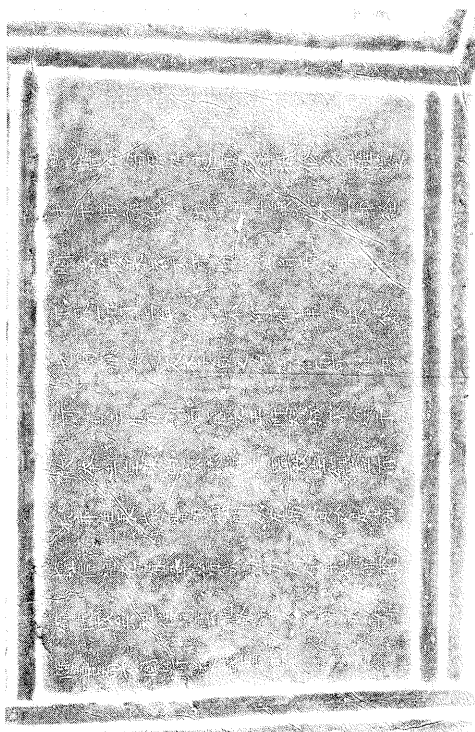
長徳寺鐘実測図



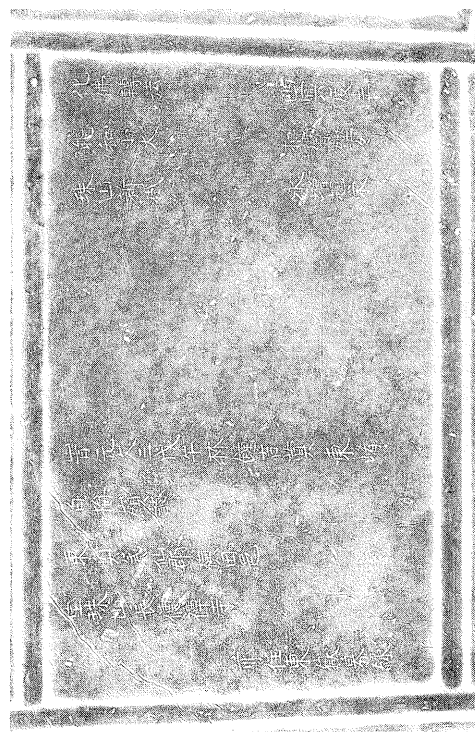
(二区)



(四区)



(一区)



(三区)

長徳寺鐘銘文拓影図

(2)日光山安光寺鐘

『立正大学博物館年報』4(平成17(2005)年)において、撫石庵コレクションの一つの半鐘について資料紹介を行った。そのなかで、埼玉県児玉郡美里町古郡に所在する日光山安光寺に現在も掛けられている梵鐘について参考として紹介した。その後、美里町教育委員会のご協力により安光寺梵鐘の調査の機会を得た。今回はその梵鐘について資料紹介をしたいと思います。

日光山安光寺は、埼玉県北西部に位置する児玉郡美里町古郡に所在する黄檗宗の寺である。開基は坂上田村麻呂とされ、奥州東伐の際に賊徒退治祈願の成就を願い日光山安光寺を創建したと伝えられている。その後、荒廃していた安光寺に元文年間中に黄檗宗の僧翠岩が譲り受け、黄檗宗の開山第一の祖として中興し、現在に至る寺である。

この日光山安光寺に掛けられている鐘は(写真1)、総高134.0cm、口径69.4cm、口唇部の厚さ7.0cmを測り、緑がかった淡黒褐色を呈する青銅製のものである。一区から4区および縦帯の部分に渡って銘文が鑄刻されている。

龍頭の大きさは高さ29.4cmで、2頭の龍を背中合わせにつけ、中央に宝珠を配し、撞座と並行する一般的なものである。

鐘身についてみると、乳の間には一区内5列×5段、縦帯部分に2個、合計108個の乳が並んでいる。また、上帯に文様は認められないが下帯には唐草文が施されている。

撞座は、内部に弁脈を充填し間弁を配した単弁八葉蓮華文である。

四区と一区の間の縦帯部分に次のように銘文

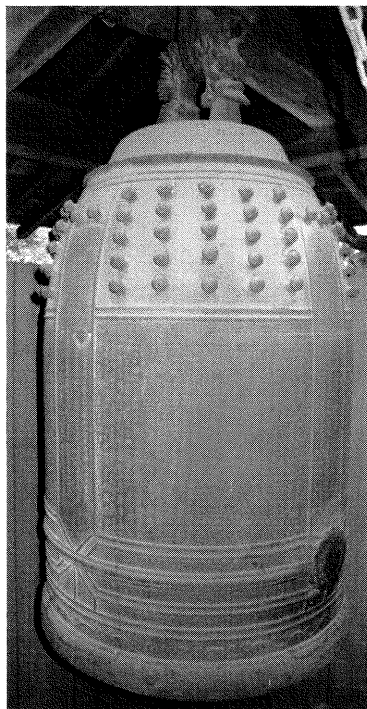


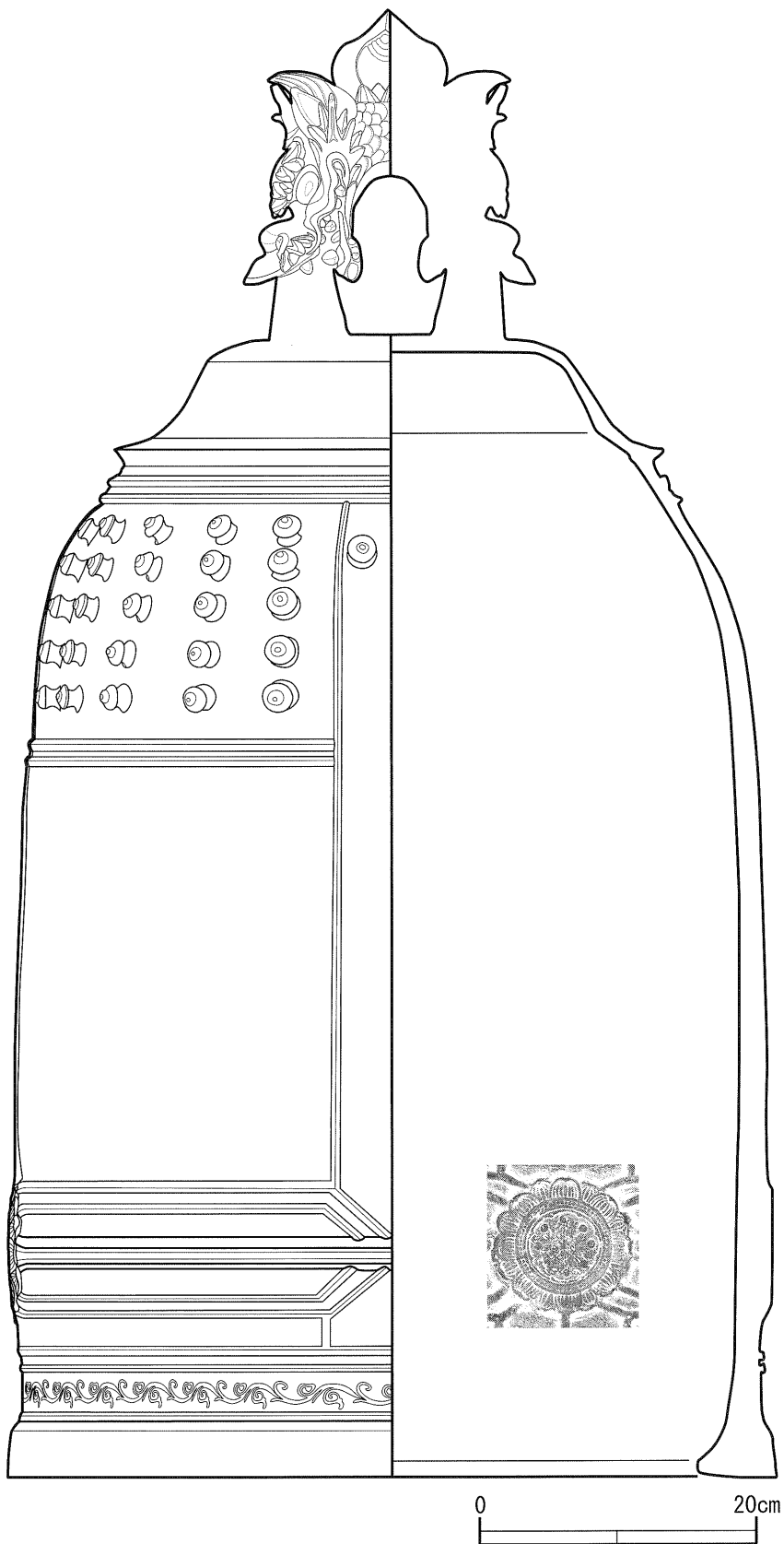
写真1 日光山安光寺鐘

が鑄刻されている。

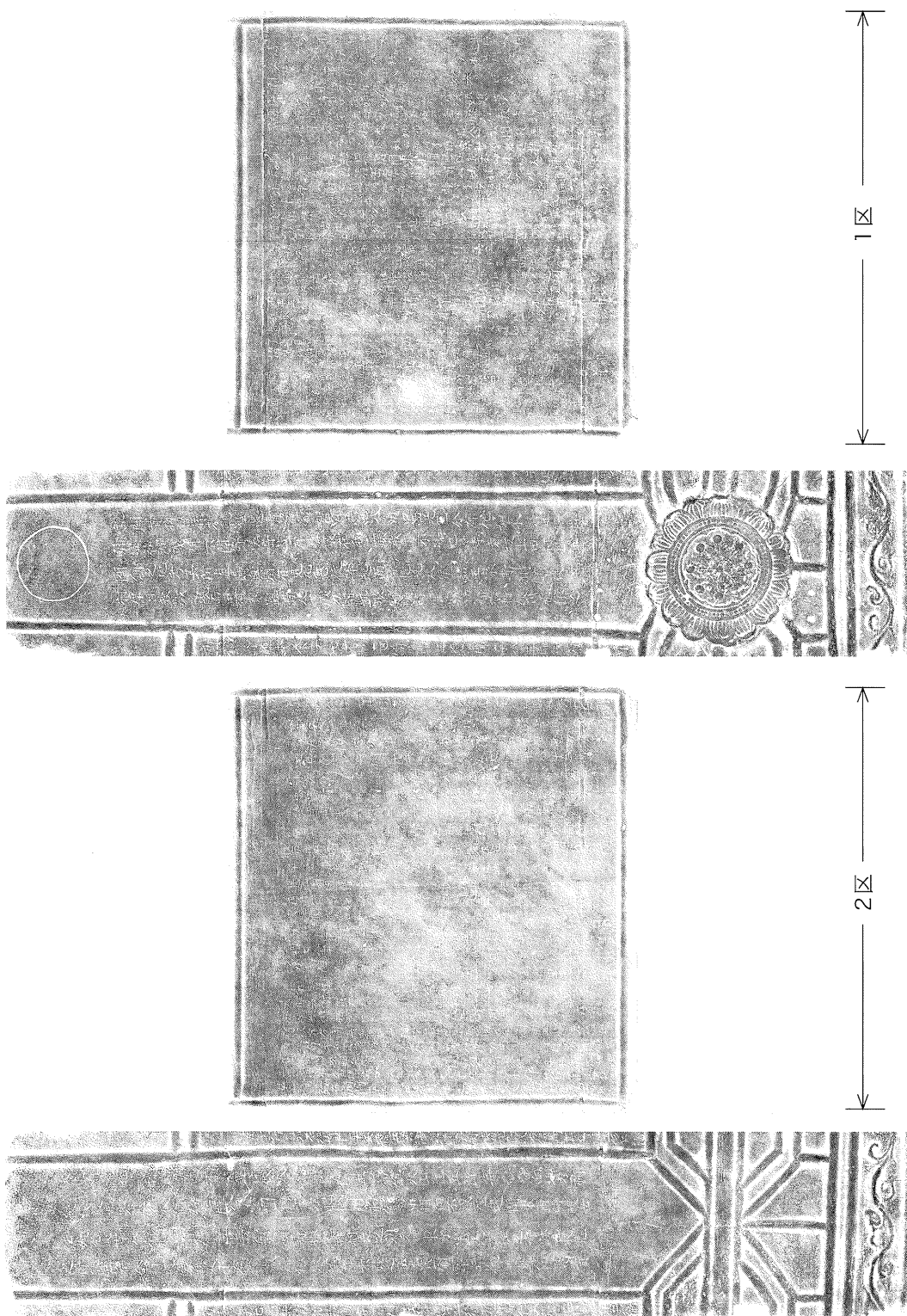
「干時寛延元戊辰冬至日／當寺中興第一代臨濟正宗三十五世翠岩手書／鑄工／江府神田住粉川市正／藤原宗次／武州那珂郡古郡村日光山安光寺」

粉川市正藤原宗次は、この他に相模海老名海源寺鐘(元文2(1737)年)・横浜小松本法寺鐘(元文2(1737)年)・市ヶ谷長延寺鐘(元文5(1740)年)・岩手県平舘大衆院鐘(寛保元(1741)年)・茨城高井高源寺鐘(延享四(1745)年)の鐘が見られるが、現存しているものは日光山安光寺鐘だけである。

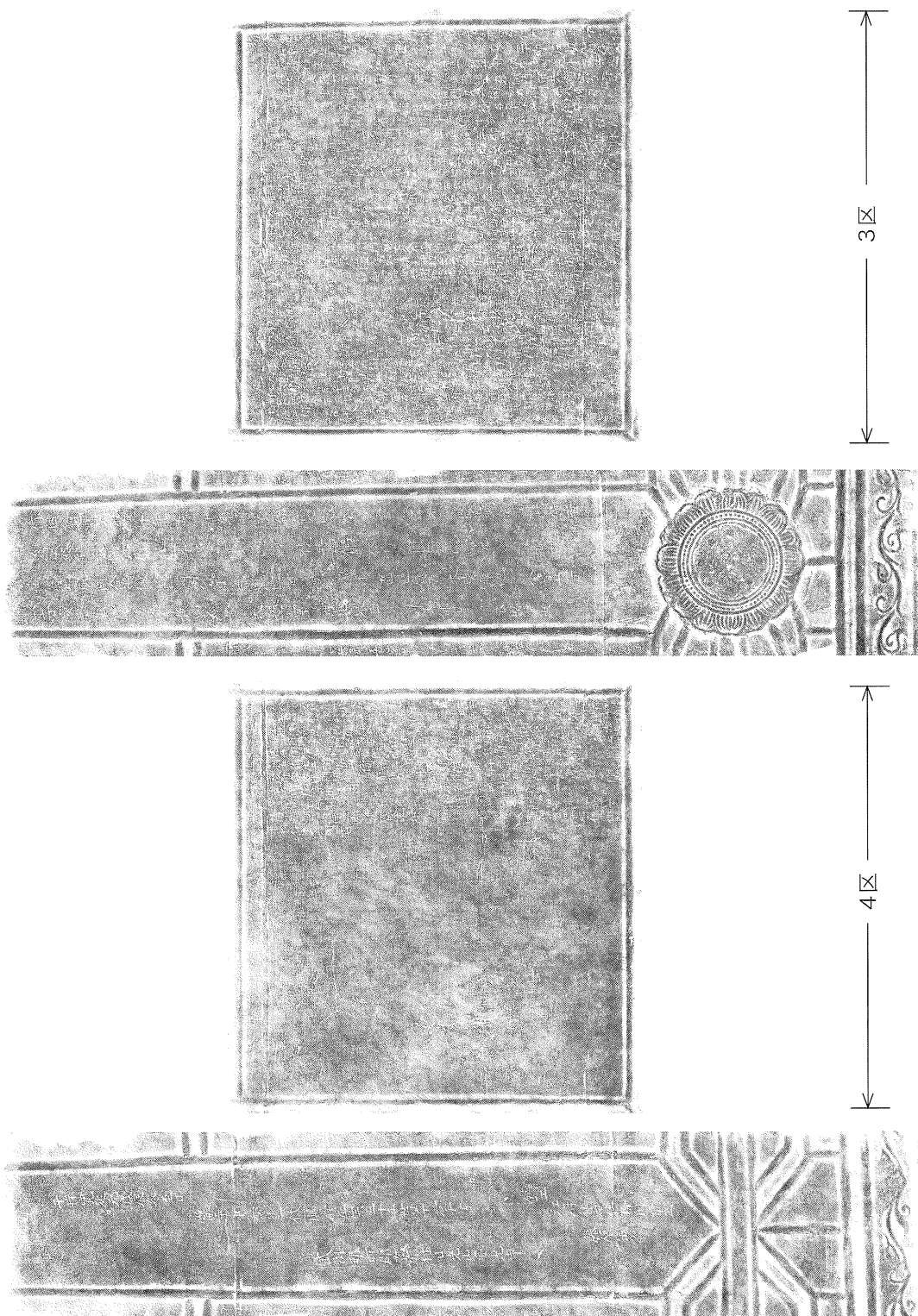
(学芸員 内田勇樹)



安光寺梵鐘実測図



安光寺梵鐘銘文拓景図(1)



安光寺梵鐘銘文拓景圖(2)

回向 ≪ 一區 ≫

清童水求願自光妙智□本院正因閑正心受相貞本

安章慈眼淨空智入道安妙院良貞法智米道全淨專

圓慶慈堤宗休自淨閑妙□良心妙智久米女

正武妙殆清安西順仙淨頓藤玄□順妙順夢覺榮心負嘉惠雲

宗木慈光妙安元正安清等譽覺音勝行永清幻夢良逝智諦

宗順桂月容川妙極教順妙順教心圓了圓宗智雪岩庭積即空玄郭妙正

樹庭妙琴心光院了妙慶圓東口孤月了圓智妙珠妙春淨榮光人如意

淨念正順理也教四妙慶圓音閑圓正蓮良木妙妙泉道好春淨榮光淨信

元超清玄良清岳常然照智散淨心了安心道光妙妙泉道好春淨榮光淨信

瀾譽淨圓玄良清岳常然照智散淨心了安心道光妙妙泉道好春淨榮光淨信

妙禪宗專淨圓玄良清岳常然照智散淨心了安心道光妙妙泉道好春淨榮光淨信

養伯清心鈴木氏吳妙証貞溫貞氣龍天妙頓道入了然□真妙喜□樞內兩親

宗清日淨勇迂道親妙貞道道邊淨空道祐了知妙覺道本壽光王翠

了心智水光順全空貞樹元照常億春映口譽智心性兵善心覺念宗西道清

智清智蓮休宗西妙榮妙常照春映口譽智心性兵善心覺念宗西道清

妙心口智蓮休宗西妙榮妙常照春映口譽智心性兵善心覺念宗西道清

宗源清岳淨心秀通禪譜入道妙常照春映口譽智心性兵善心覺念宗西道清

定信口池鉄映了樹教誓休道長灌注照惠教運心口夢道因誓八妙源

妙正緣妙甲離念了樹常心持貞智晴元運良棧宗榮藤田氏吳元利元妙元

近藤氏吳貞本淨齊淨性道清淨順就相洞室了伯一心妙心是性妙善妙林

道童妙涼鏡惠照香散宗會妙休幻及道知恩宗樹日隆日淨如香淨閑

了喜貞心是帳宗蓮是正道光妙玄理元凜道彌七宅吳吉田氏吳常圓

梅信妙惠貞正善通惠林了覺惠宗理了心屬七宅吳吉田氏吳常圓

了夢知禪幻達妙善通惠林了覺惠宗理了心屬七宅吳吉田氏吳常圓

圓譽妙達妙善通惠林了覺惠宗理了心屬七宅吳吉田氏吳常圓

花室鐵樹無量一根智証妙心孝譽全仲壽山淨空湏天女父淨安是法就妙圓輪

說聞一區と二區の間明宣秘演或聞孫乾姜造青石鐘如青五色八角四面光互分有化如求興日借出開創之地考其所由昔時奧州有鬼九惡徒蜂起而欲惱乱蒼生此寺坂上田村將軍村摩呂戮之既而田村家觀音太士威力門唱凱口婦陳時重口勅命於勅使川原口之

祈禱二區隨本養安七兵衛甚右衛門三右衛門平八五郎兵衛十兵衛

伊左衛門忠次郎寺田平兵衛常軒九平次甚助典四郎

七兵衛八兵衛十兵衛傳八久七郎平八十三郎

小右衛門善兵衛甚右衛門太平次郎兵衛半四郎六郎兵衛

忠兵衛安兵衛忠右衛門太右衛門孫七弥平庄次郎長左衛門

德兵衛吉兵衛五郎兵衛三左衛門忠兵衛七右衛門太朗

團六文右衛門半四郎五郎右衛門安兵衛茂左衛門与兵衛

市郎兵衛五郎左衛門与兵衛又兵衛甚兵衛十右衛門茂兵衛

平七清右衛門安右衛門吉左衛門安之助市郎兵衛五郎兵衛

長左衛門傳右衛門甚平弥四郎涼兵衛庄右衛門兵右衛門權六

庄兵衛勘七小右衛門典八甚兵衛金兵衛甚兵衛新藏三郎兵

忠兵衛利右衛門淨閑市郎兵衛弥市甚兵衛庄兵衛五郎兵衛鉄平

安右衛門清兵衛忠七勘三郎甚兵衛庄兵衛次兵衛源藏

新七金十郎五郎八庄兵衛善八道竹方兵衛次兵衛里世弥兵衛

孫右衛門次郎兵衛賀兵衛藤兵衛次郎右衛門里世弥兵衛

長右衛門久八利兵衛伊右衛門權七義兵衛清兵衛文六

太朗兵衛市太夫兵衛次右衛門義兵衛利兵衛次郎兵衛庄右衛門

傳八市右衛門長兵衛伊惣次曾世小兵衛九兵衛吉兵衛孝橋氏權七

吉右衛門才右衛門紹信弥右衛門助左衛門妙光壽光理珪清雲權七

吉右衛門次郎兵衛嘉兵衛又兵衛清兵衛太兵衛平兵衛太兵衛

山田竜庵半兵衛磯女次兵衛庄七宗兵衛彦十郎藤三郎安兵衛

平兵衛弥右衛門平兵衛五兵衛律之都清九郎八右衛門甚兵衛彦兵衛

大軍二區と三區の間殺代故也其遺跡今猶存在嘉運降伏大毒龍安智主四所鎮大山住五所每社皆向北者祈時峻岳

祈
禱 ≪ 三
區 ≫

之法
忻姪
然乞
而此
布古
金基
得於
焉村
券老
諸而
人強
千與
有吾
餘吾
歲得
佛之
像欲
殿易
堂勝
等地
叢料
林村
之老
器之
悉則
盛老
備日
一東
千方
年後
山是
挑古
法往
燈之
是寺
實跡
也我
見

久平尚仁九十九庄又吉平善西伊弥又太市喜戸鈴次勘又平市傳元眞宗三
兵八女兵郎右右兵次兵兵右兵岸兵七兵郎兵兵田木右兵右兵郎七通雪七區
衛彥七衛右衛衛門門清彥甚金門六兵藤衛長衛右衛衛兵元伊市治兵
長兵兵次衛郎門茂太藏兵兵兵小兵郎次田郎兵長衛庄仁守岸九小右衛門仁衛良千良兵
三衛衛郎門門茂太藏兵兵兵小兵郎次田郎兵長衛庄仁守岸九小右衛門仁衛良千良兵
郎宇彥吉理八郎兵益兵衛衛兵衛兵衛兵衛兵衛兵衛兵衛兵衛兵衛兵衛兵衛兵衛兵衛兵
安兵市平右口兵兵益兵衛衛兵衛兵衛兵衛兵衛兵衛兵衛兵衛兵衛兵衛兵衛兵衛兵衛兵
兵衛只三衛門彥岩衛兵左德門新七太衛勝勘久武衛弥武衛兵權兵權兵權兵權兵權兵權
衛權七郎門門右女兵衛助兵衛門郎權新兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵
賀八善太右兵衛門十衛佐八權新兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵
兵半三右兵衛衛門十衛佐八權新兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵
衛九郎市門久庄郎兵長兵衛傳門兵次兵衛喜新長女兵衛喜茂衛兵吉兵兵兵兵兵兵兵
藤郎與右長右衛衛門長兵衛兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵
兵與三衛門郎半彥兵衛門左十衛右長兵衛兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵
衛三兵衛小四兵衛與源兵衛門九郎右兵衛衛門甚彥衛門門忠兵權衛兵清衛兵長女勘
五兵長藤次兵衛權七郎右兵衛衛門甚彥衛門門忠兵權衛兵清衛兵長女勘
兵衛助新兵衛權八郎兵衛衛門甚彥衛門門忠兵權衛兵清衛兵長女勘
利衛新兵衛權八郎兵衛衛門甚彥衛門門忠兵權衛兵清衛兵長女勘
右十平八兵衛衛門甚彥衛門門忠兵權衛兵清衛兵長女勘
衛兵平四郎兵衛衛門甚彥衛門門忠兵權衛兵清衛兵長女勘
門衛四郎兵衛衛門甚彥衛門門忠兵權衛兵清衛兵長女勘
八五郎兵衛衛門甚彥衛門門忠兵權衛兵清衛兵長女勘
郎兵八小兵衛衛門甚彥衛門門忠兵權衛兵清衛兵長女勘
兵衛清衛郎衛衛門甚彥衛門門忠兵權衛兵清衛兵長女勘
衛清衛郎衛衛門甚彥衛門門忠兵權衛兵清衛兵長女勘
孫右平新六衛衛門甚彥衛門門忠兵權衛兵清衛兵長女勘
四衛左久衛衛門甚彥衛門門忠兵權衛兵清衛兵長女勘
郎門衛右門衛門甚彥衛門門忠兵權衛兵清衛兵長女勘
清長門五衛門甚彥衛門門忠兵權衛兵清衛兵長女勘
七兵衛郎門甚彥衛門門忠兵權衛兵清衛兵長女勘
兵衛半兵七衛

何因縁也謹爲銘日千年遺跡十年再興佛像經卷殿堂法器苦行所感嚴土現然請鐵梅香
爲中興租我富江府化一千衆彫名此鐘禮三世佛修將來因如隋帝兄聲振地府
受皆脱阿含鳴鐘轉闕寶業奇觀世音□其佛日永照下土木落非他衆音一音衆音
覺鐘沙夢拔劫沙夢大切無宰南北東西□其佛日永照下土木落非他衆音一音衆音

《四区》

源八甚左右衛門平助七兵衛善兵衛彦三郎茂兵衛次郎右衛門長五郎善兵衛妙雲
妙薰士郎八作兵衛平兵衛忠兵衛善兵衛彦三郎茂兵衛次郎右衛門長五郎善兵衛妙雲
庄助清次郎七兵衛庄兵衛彌七安兵衛清九郎佐兵衛五郎兵衛義兵衛八郎右衛門源助善兵衛忠七兵衛
角左衛門庄右衛門勘兵衛右衛門伊三郎兵衛五郎兵衛義兵衛八郎右衛門源助善兵衛忠七兵衛
忠兵衛伊兵衛勘兵衛右衛門伊三郎兵衛五郎兵衛義兵衛八郎右衛門源助善兵衛忠七兵衛
利兵衛七兵衛勘兵衛右衛門伊三郎兵衛五郎兵衛義兵衛八郎右衛門源助善兵衛忠七兵衛
彦助安右衛門悅利源兵衛三郎新衛門九郎兵衛五郎兵衛義兵衛八郎右衛門源助善兵衛忠七兵衛
長右衛門宗悅利源兵衛三郎新衛門九郎兵衛五郎兵衛義兵衛八郎右衛門源助善兵衛忠七兵衛
七兵衛又右衛門又兵衛七新衛門九郎兵衛五郎兵衛義兵衛八郎右衛門源助善兵衛忠七兵衛
清壽弥平次伊三郎清女盛女平太源七助吉兵衛傳右衛門覺高柳忠藏吉野仁左衛門女
市松鈴木六兵衛平七女盛女平太源七助吉兵衛傳右衛門覺高柳忠藏吉野仁左衛門女

《四区と一区の間》

千時寛延元辰冬至日

當寺中興第一代臨濟正宗三十五世翠岩手書

鑄

工府神田住粉川市正

武州那珂郡古郡村日光山安光寺

藤原宗次

IV. 寄贈図書目録

(2003.4～2004.3)

<青森県>

八戸市教育委員会

- ・掘りdayはちのへ 八戸市埋蔵文化財ニュース 第9号
- 八戸市埋蔵文化財調査報告書
- ・第109集 八戸市内遺跡発掘調査報告書22
- ・第110集 是川一王寺(1)遺跡
- ・第111集 八戸市内遺跡発掘調査報告書23
- ・第112集 市子林遺跡第9次A地点
- ・第113集 田向冷水遺跡II

<宮城県>

東北大学史料館

- ・東北大学史料館だより No.5

<福島県>

(財)福島県文化振興事業団 福島文化財センター白河館

- ・まほろん通信 Vol.20～23

<栃木県>

佐野市郷土博物館

- ・佐野市郷土博物館年報-平成14年度版・平成15年度版-

栃木県立なす風土記の丘資料館・小川館

- ・栃木県立なす風土記の丘資料館年報 第14号

栃木県立なす風土記の丘資料館展示図録

- ・第15冊 あずまのやまのみち-那須の防人、広成が通った道-

<群馬県>

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

- ・年報25

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書

- ・第373集 吹屋伊勢森遺跡
 - ・第374集 矢部遺跡・新島遺跡
 - ・第375集 立馬II遺跡
 - ・第377集 江木下大日遺跡
 - ・第378集 小野地区水田址遺跡(社宮司B地点)谷地遺跡F地点
 - ・第379集 上郷B遺跡廣石A遺跡二反沢遺跡
 - ・第380集 富岡竹ノ内・和田山寺久保遺跡
 - ・第381集 横壁中村遺跡(4)
 - ・第382集 今井見切塚遺跡-旧石器時代編-
 - ・第383集 高源地東I遺跡・第385集 高井桃ノ木III遺跡
 - ・第385集 高井桃ノ木III遺跡総集編
 - ・第386集 塚下遺跡(1)
 - ・第387集 西野原遺跡(1)(2)
 - ・第388集 立馬I遺跡-縄文時代早期・晩期および弥生時代の豊富な資料-
 - ・第390集 天ヶ堤遺跡(1)
 - ・第391集 砂押遺跡・拾貳木遺跡
 - ・第393集 中屋敷東遺跡・田中田遺跡・大沼下遺跡
 - ・第394集 細谷南遺跡 細谷八幡遺跡
- #### 高崎市観音塚考古資料館
- ・観音塚古墳の世界

<埼玉県>

(財)サトエ記念美術・スポーツ振興財団

- ・平成16年度 企画展図録総集編

上尾市教育委員会

- ・上尾の文化財保護年報-平成17年度-上尾市文化財調査報告
- ・第79集 上尾市 徳星寺山門調査報告書
- ・第80集 後山遺跡(第5次調査)-平成17年度 市内遺跡発掘調査報告-上尾市遺跡調査会調査報告書
- ・第31集 宿北II遺跡-第2次調査-
- ・第32集 上・宮下遺跡-第3次調査-

- ・第 集 宿前Ⅲ遺跡－第2次調査－

朝霞市博物館

- ・第18回企画展 日本のカメラ今昔物語
- ・第19回企画展 雅楽－音・舞・技－
- ・第 回企画展 つくろう自然のコレクション
- ・朝霞市博物館活用授業実践事例集Ⅲ
- ・朝霞市博物館館有資料目録Ⅵ
- ・朝霞市博物館研究紀要 第9号

跡見学園女子大学 花蹊記念資料館

- ・にいくら №10・11
- ・跡見学園女子大学花蹊記念資料館 跡見純弘
コレクション 収蔵品目録

入間市博物館

- ・「未来に伝える遺産－入間市の文化財－」展
示ガイドブック
- ・入間市博物館紀要 第6号
- ・NEWS-ALIT 第34号～第38号

浦和くらしの博物館民家園

- ・みんかえんだより 第30号

春日部市遺跡調査会

春日部市遺跡調査会報告書

- ・第17集 慈恩寺原北遺跡2次調査地点
- ・第18集 小湊山下遺跡2次調査地点
- ・第19集 小湊山下遺跡3次調査地点
- ・春日部市庄和町史編さん資料 (13)
民俗Ⅲ－日々の暮らしと仕事－
- 春日部市埋蔵文化財発掘調査報告書
- ・第1集 花積台耕地遺跡7次地点 慈恩寺原
南遺跡4・5次地点 貝の内遺跡11・19次地
点 小湊山下北遺跡8次地点 浜川戸遺跡29
次地点

庄和町遺跡調査会報告書

- ・第12集 吉岡遺跡 第2～5次
- ・第15集 権現山遺跡 第1次

川越市立博物館

- ・川越城跡第2次調査発掘調査報告書
- ・博物館だより 第48号・49号

- ・第28回企画展 柳沢吉保と風雅の世界

行田市郷土博物館

- ・第17回テーマ展 忍名所図会の風景
- ・第20回企画展 板碑－中世の行田を探る－
- ・行田市郷土博物館報 第13号
- ・行田市郷土博物館だより ミュージアム行田
№38

熊谷市立熊谷図書館 美術、郷土係

- ・埋もれていた郷土の絵師たちⅢ－樋口春翠・
萩原春山・福島春眠－
- ・生活の中のきもの 衣生活展

江南町教育委員会

江南町埋蔵文化財発掘調査報告書

- ・第13集 寺内遺跡範囲確認調査関連報告書
- ・第15集 上前原遺跡第2次発掘調査報告書
- ・合併五十周年・町制施行二十周年記念『江南
町のあゆみ』江南町史普及版
- ・江南町史 通史編 上巻
- ・江南町史 通史編 下巻
- ・江南町史 資料編1 考古
- ・江南町史 資料編2 古代・中世
- ・江南町史 資料編3 近世
- ・江南町史 資料編4 近代・現代
- ・江南町史 資料編5 民俗
- ・江南町史 自然編1 動物
- ・江南町史 自然編2 植物
- ・江南町の板碑 江南町史 報告編1

鴻巣市教育委員会

- ・鴻巣の文化財 第6号 国指定重要文化財

生出塚埴輪窯跡出土品図録

- ・鴻巣市文化財調査報告 第13集 鴻巣市遺
跡群12 生出塚遺跡 (W地点)
- ・鴻巣市遺跡調査会報告書 第12集 宮前本
田遺跡 (第1次調査)

埼玉県立川の博物館

- ・かわはく №25～27
- ・平成17年度協同テーマ展 水辺の宝石-かわ

せみー

- ・さいたま川の博物館紀要 6号

埼玉県平和資料館

- ・平成18年度テーマ展Ⅱ 戦時の装い そのとき日本人は何を着ていたか
- ・埼玉県平和資料館だより Vol.14-1

埼玉県立さきたま史跡の博物館

- ・最新出土品展―地中からのメッセージ―
- ・館報 No.1
- ・調査研究報告 第19号

埼玉県立自然史博物館

- ・自然史だより 第59号
- ・埼玉県立自然史博物館研究報告 第23号
- ・埼玉県立自然史博物館収蔵資料目録第19集 陸産貝類（Ⅰ）
- ・巨大昆虫の世界―ようこそトロピカルワールドへ―

埼玉県立文書館

- ・第51回収蔵文書展―県文化財指定記念―埼玉県行政文書が語る80年～明治・大正・昭和～

埼玉県立歴史と民俗の博物館

- ・芸能絵巻―舞い踊り囃す―
- ・埼玉県立博物館紀要 31
- ・平成18年度要覧
- ・由来 伝来 名刀の一千年
- ・埼玉県立博物館だより THE A M U S E U M Vol.33-3（通巻）121号
- ・埼玉県立歴史と民俗の博物館 THE A M U S E U M Vol.1-1（通巻）第1号
- ・埼玉県立歴史と民俗の博物館 THE A M U S E U M Vol.1-2（通巻）第2号
- ・埼玉県立歴史と民俗の博物館だより vol.1-3（通巻）第3号

さいたま市立博物館

- ・さいたま市立博物館研究紀要 第5集
- ・第18回企画展 さいたまの縄文時代～まず

は後晩期から

- ・第30回特別展 足踏みオルガンがやってきた！―唱歌から浪花節まで・うたをめぐる近代史―

さいたま文学館

- ・秩父 文学の旅
- ・館報 第9号
- ・武者小路実篤と新しき村―理想の旗のもとに―サトエ記念21世紀美術館
- ・平成17年度 企画展図録総集編
- ジョン・レノン・ミュージアム
- ・John Lennon Museum news vol.1～21

秩父市立歴史民俗資料館

- ・秩父市立歴史民俗資料館

戸田市立郷土博物館

- ・郷土博物館だより vol.34
- ・市制施行40周年企画展 おめでとう！40歳
- ・戸田市立郷土博物館要覧 2006年度版（平成17年度事業報告）
- ・第22回特別展図録 時は、弥生から古墳へ

鉢形城歴史館

- ・史跡鉢形城跡調査報告第3集 史跡鉢形城跡
- 富士見市立難波田城資料館
- ・難波田城のすべて
 - ・富士見市立資料館要覧 2005
 - ・文字・鉄・仏教―富士見の”古代文化”―

ふじみ野市立大井郷土資料館

- ・平成18年度企画展 大井のつのや おらあほうの曲り屋
- ・資料館通信 第59号

ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館

- ・第21回特別展 昔の照明と暮らし

美里町教育委員会

美里町遺跡発掘調査報告書

- ・第6集 広木大町古墳群 後山王地区 後山王遺跡E地点
- ・第7集 生野山古墳群 熊谷支群 熊谷後1

号墳

- ・第17集 北貝戸遺跡・南十条遺跡―県営圃場整備事業美里地区関係埋蔵文化財調査報告Ⅱ―
- ・第19集 埼玉県美里町 南志渡川遺跡・志渡川古墳・志渡川遺跡

宮代町郷土資料館

- ・平成18年度特別展 笠原沼と笠原沼代用水
- 毛呂山町歴史民俗資料館
- ・第15回特別展 やぶさめ紀行―毛呂の流鏑馬 児のやぶさめ―

立正大学大学院地球環境科学研究科オープンリサーチセンター

- ・立正大学 文部科学省学術研究高度化推進事業 オープンリサーチセンター（ORC）整備事業 平成17年度事業報告書

蕨市立歴史民俗資料館

- ・第25回特別展 桐山千一「花の写真展」
- ・第17回平和祈念展 戦中から戦後へ

<千葉県>

千葉県立中央博物館 大利根分館

- ・調査研究報告 第3号・第6号・第8号
- ・収蔵資料目録Ⅲ 自然・考古資料
- ・収蔵資料目録4
- ・収蔵資料目録5 水郷写真資料
- ・収蔵資料目録6 木内家文書
- ・収蔵資料目録7 写真集絵はがきにみる水郷
- ・年報 平成5・7年・9年～14年
- ・千葉県立大利根博物館
- ・千葉県立大利根博物館 常設展示案内
- ・10年の歩み
- ・水郷の鳥と魚百話
- ・写真集 利根川高瀬船
- ・大原幽学―幕末の農村指導者―
- ・人生開拓―市和田50年のあゆみ―
- ・大利根博物館友の会創立25周年記念 館報

於おと祢 抄録

- ・特別展「天保水滸伝の世界」展示図録
- ・特別展「鯰百話」展示図録
- ・特別展「地獄・極楽」展示図録
- ・特別展「鴨百話」展示図録
- ・企画展「満員御礼！大利根座―民俗芸能から映画まで―」
- ・平成10年度企画展示「銚子と野球」
- ・企画展「東総の大般若経」展示図録
- ・平成11年度出土遺物展（25周年記念展）
今、古代史がおもしろい―出土文字からさぐる房総の古代―
- ・企画展「フナと釣り」展示図録
- ・企画展「祈りのこころ 祈りのかたち」展示図録
- ・第10回千葉県立美術館・博物館合同企画展
房総の漁―海と川―
- ・千葉県立大利根博物館・千葉県立関宿城博物館 共同企画展 英雄・怨霊 平将門～史実と伝説の系譜～
- ・企画展「水郷―水のさとに生きる―」
- ・企画展「いずれ菖蒲か杜若

―水辺の花の物語―」

- ・合同企画事業「水郷の生活と船」展示図録
- ・平成18年度企画展「千葉の力士たち―利根川下流域の相撲文化―」展示図録

城西国際大学物質文化研究センター

- ・物質文化研究 第3号

<東京都>

(財)渋沢栄一記念財団

- ・青淵 第685号～第696号

(財)日本博物館協会

- ・博物館研究 Vol.41No.3通巻454号～Vol.41No.5通巻456号
- ・博物館の望ましい姿シリーズ6 誰にもやさしい博物館づくり事業 外国人対応

- ・博物館の望ましい姿シリーズ7 誰にもやさしい博物館づくり事業 バリアフリーのために
- ・博物館の望ましい姿シリーズ8 誰にもやさしい博物館づくり事業 高齢者対応
- ・少年自然の家等の自然環境を活用した自然環境玉手箱100 (CD-ROM)
- ・博物館の経営・運営指標 (ベンチマーク) づくり報告書
- ・博物館研究 Vol.41No.6通巻457号～Vol.42 No.2通巻464号
- ・平成18年度 会員名簿

NPO法人国際縄文学協会

- ・NPO法人国際縄文学協会紀要 第2号

大田区立郷土博物館

- ・横穴墓のなぞ

お札と切手の博物館 (国立印刷局博物館)

- ・お札と切手の博物館ニュース Vol.21

学習院大学 学芸員資格取扱事務室

- ・学芸員Bulletin for Curator's Course 2006 No.10

学校法人 女子美術大学

- ・女子美 No.154～No.156

駒澤大学禅文化歴史博物館

- ・駒大史ブックレット5 「図書館誌」にみる駒大図書館史【その1】
- ・前田英昭コレクション 国会・昔と今ー政治をもっと身近なものにー
- ・駒澤大学禅文化歴史博物館所蔵の古瓦 考古資料展1「日本・中国の古瓦」図録
- ・館蔵資料展2006 禅のかたち・禅のこころー中世から近代へー

財団法人全日本仏教会

- ・ルンビニー園復興事業事業報告収支決算報告

実践女子学園 香雪記念資料館

- ・実践女子学園香雪記念資料館館報 第3号 (平成17年度)

渋沢史料館

- ・渋沢研究 第18号
- ・青淵先生、想い続けて120年ー竜門社の歩みー 社団法人 日本ユネスコ協会連盟
- ・ユネスコ世界遺産年報2007 No.12

玉川大学教育博物館

- ・博物館ニュース「集」 26号・27号

東京家政学院 生活文化博物館

- ・東京家政学院生活文化博物館年報 第16号
- ・2006秋季特別展 中央アンデスの編む組む 織る

日本ミュージアム・マネジメント学会

- ・文化庁平成18年度優秀指導者特別指導助成「ミュージアム戦略とマーケティング」シンポジウム事業

佛教石造文化財研究所

- ・石造文化財 2

三井記念美術館

- ・「敦煌経と中国仏教美術」展覧会プレスリリース
- ・明治大学校地内遺跡調査団 明治大学校地内遺跡調査団年報 3 (2005年度)

明治大学博物館事務室

- ・明治大学博物館資料目録 第63号
- ・明治大学博物館年報 2004年度
- ・明治大学博物館研究報告 第11号

立正大学経営学会

- ・立正経営論集 第38巻第2号

(株)丹青研究所

- ・ミュージアム・データ No.70・No.71

(株)文化環境研究所

- ・文環研レポート No.23
- ・Cultivate 第28号・第29号

(株)雄山閣

- ・東京の古墳を考える

國學院大學21世紀COEプログラム考古学班

- ・國學院大學21世紀COEプログラム国際シ

ンポジウム予稿集 東アジア世界における日本基層文化の考古学的解明（附 國學院大學 21世紀COEプログラム2006年度考古学調査報告）

21COE考古学シリーズ7

北川 前肇先生

・書簡にみる 日蓮 心の交流

時枝 務先生

・那智経塚遺宝

・日本の考古学—その歩みと成果—

・東京国立博物館所蔵 須恵器集成Ⅰ（近畿篇）

・東京国立博物館所蔵 須恵器集成Ⅱ（東日本篇）・（西日本篇）

・東京国立博物館寄贈品図録 後藤守一氏コレクション 杉原莊介氏コレクション

・土器の造形—縄文の動・弥生の静—

・目でみる120年

・東京国立博物館紀要 第29号

・海上の道—沖縄の歴史と文化—

・東京国立博物館寄贈品図録 星野芳郎氏コレクション

・経塚—関東とその周辺—

・平成十年度国立博物館・美術館巡回展 日本の美—縄文から江戸まで—

<神奈川県>

大磯町郷土資料館

・Report—大磯町郷土資料館だより—No.26

・企画展アオバトのふしぎ—神奈川県天然記念物指定10周年記念—

・年報 平成16年度

・資料館資料9 大磯町郷土資料館収蔵資料目録 民俗（生活）資料—食—

・資料館資料10 大磯町郷土資料館収蔵資料目録 民俗（生活）資料—住—

・旧高麗寺の神と仏

<長野県>

大町山岳博物館

・山と博物館 第51巻第6号

<富山県>

富山県教育委員会 埋蔵文化財センター

富山市小西北遺跡発掘調査報告書

・1 富山市小西北遺跡発掘調査報告書

・2 黒崎種田遺跡発掘調査報告書

・3 富山市砂子田Ⅰ遺跡発掘調査報告書

・4 鶴坂Ⅰ遺跡 発掘調査報告書

・6—（1）富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書Ⅱ

・6—（2）富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書Ⅱ

・7 富山市打出遺跡発掘調査報告書

・8 富山城跡試掘確認調査報告書

・9 富山市米田大覚遺跡発掘調査報告書

・10 富山市内遺跡発掘調査概要Ⅰ

・11 富山市四方背戸割遺跡発掘調査報告書

・12 富山市東老田Ⅰ遺跡発掘調査報告書

・13 富山城跡発掘調査報告書

・18 富山市向野池遺跡発掘調査報告書

・138 富山市打出遺跡発掘調査報告書

・140 富山市水橋荒町・辻ヶ堂遺跡発掘調査報告書

<兵庫県>

兵庫県立美術館

・地図に載らない文学館 ネットミュージアム 兵庫文学館（CD）

<福岡県>

筑紫野市教育委員会

筑紫野市文化財調査報告書

・第86集 原遺跡2

・第87集 長道遺跡

- ・第88集 椰野遺跡
- ・第89集 日焼遺跡2
- ・第90集 原田第1・2・40・41号墓地下巻

九州産業大学美術館

- ・平成16.17年度 九州産業大学美術館年度報告書No.2
- ・歴史にすわる 九州産業大学美術館調査研究報告書第2集
- ・日本ユニバーシティ・ミュージアム総覧

<三重県>

松阪市埋蔵文化財センター

- ・三重県松阪市2005年度埋蔵文化財調査概報
- ・平成16年度文化財調査報告
- ・史跡宝塚古墳保存整備報告書
- ・草山遺跡発掘調査月報No.01～No.10（増刷合冊）－三重県松阪市下村町・久保町－

<高知県>

高知県立歴史民俗資料館

- ・岡豊風日 第56～58号

- ・高知県立歴史民俗資料館年報平成17年度No.15

<京都府>

同志社大学歴史資料館

同志社大学歴史資料館調査研究報告

- ・第6集 岩倉忠在地遺跡 同志社小学校建設に伴う発掘調査報告書
- ・同志社大学歴史資料館館報 第9号

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

- ・京都府埋蔵文化財情報 第99号

<大阪府>

大阪大学総合学術博物館

- ・「見る科学」の歴史－懷徳堂・中井履権軒の目－

豊中市教育委員会

豊中市文化財調査報告書

- ・第57集 大阪府指定史跡 春日大社南郷目代今西氏屋敷－現存する荘官屋敷にかかる第1～7次発掘調査成果の報告－

立正大学博物館年報 5

(平成18〈2006〉年度)

平成19 (2007) 年 9 月30日 発行

編集・刊行 立正大学博物館

〒360-0161 埼玉県熊谷市万吉1700

TEL. 048-536-6150 FAX. 048-536-6170

E-mail : museum@ris.ac.jp

<http://www.ris.ac.jp/museum/>

(印刷 光写真印刷株式会社)